

Title	製薬企業における研究開発の効率に関する一考察
Sub Title	
Author	舩屋, 泰之(Masuya, Yasuyuki) 柳原, 一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2085号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2085">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2085</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	柳原研究会	学籍番号	80430876	氏名	舛屋 泰之
(論文題名)					
製薬企業における研究開発の効率に関する一考察					
(内容の要旨)					
<p>欧米の製薬企業は80年代後半から90年代にかけて企業買収や合併を繰り返してその規模を拡大してきた経緯を持つ。このような動きも一時沈静化するかのように見えたが、2000年のファイザーによるワーナーランバートに対するTOBに見られるように、近年再び活発化の様相を呈してきている。</p> <p>これに対し、日本国内における製薬業界の再編についても、ここ数年来注目を浴び続けてきたことではあるが、このような欧米製薬企業の積極的かつ活発な動きを受け、山之内製薬と同5位の藤沢薬品工業の05年4月の合併、また、05年10月の三共と第一製薬の統合など、日本でも存続をかけた再編による規模拡大の動きが本格的になってきていると言える。</p> <p>製薬企業の命綱は研究開発による画期的な新薬の創出である。研究開発にかかる膨大な投資コストの拡大を背景においた場合、企業規模拡大が必要な理由としては、研究開発投資の早期回収による次期投資資金の確保及び回収額の最大化、新薬承認数の減少傾向などが上げられるが、では、企業規模を拡大して多額の研究開発投資をつぎ込んだからといって、はたして画期的な新薬が生まれるのだろうか。国内製薬企業に限らず、研究開発投資の規模は拡大傾向にある一方で、画期的新薬の承認件数は減少傾向にあるのである。</p> <p>そこで、本論分においては、企業で繰り広げられる研究開発の過程をシミュレーションモデルという形式で構築し、そのモデルが示す傾向を分析することで、製薬企業における研究開発のあり方が、新薬開発にどのような影響を及ぼすかを検討した。</p> <p>その結果、次のようなことが研究開発の政策上、重要であるという示唆が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを簡単に見限ることなく、継続性を重視する。</li> <li>2. むやみに研究開発の領域やテーマ数を広く持たずに、得意領域の強化を図ることで、開発競争の中のスピード競争から回避する。</li> <li>3. 得意分野以外では、研究開発の領域を選択的に絞る事でコスト競争から回避し、資源は得意分野において集中的に投下することでダントツの競争優位を築くよう努める。</li> <li>4. 競争優位を築くことで、不要な競争を回避し、予算枠を守りながら自社の成長に適したスピードで新薬の開発を行う。</li> </ol> <p>製薬企業は、単純な規模拡大競争に走るのではなく、上記のような研究開発のポリシーを持つことで、本来求めるべき新薬の早期開発という本質的な問題に取り組むことが重要であり、その結果効率のよい研究開発が実践されることで、変化の激しい製薬業界の中における持続的競争優位の構築を実現していくことにつながるのである。本論分では、持続的競争優位の実現に向け、製薬企業の新薬研究開発における役割と今後目指すべき方向性について検討している。</p>					